

令和7年5月31日



学校だより5月号

- 教育目標
- 1 深く考え、進んで学習する
 - 2 責任を重んじ、規律正しく行動する
 - 3 心身を鍛え、情操豊かにする

港区西麻布四丁目14番8号

電話: 03-3409-7687

校長: 中山 幸子

港区立 高陵中学校 Koryo Junior High School

「あたりまえと未来」

校長 中山 幸子

「皆さんは可能性の細胞でできています。」この言葉は、本校生徒の皆さんには聞きなれてきています。そう、これからの未来は自分次第で変わります。

未来の話題をしましたが、「シンギュラリティ」という言葉を紹介します。「シンギュラリティ」とは、「人工知能が人間の知能と融合する時点」と定義され、「人間の脳と同じレベルの AI(人工知能)が誕生する時点」を意味するその到達を、20年後の令和27年と予想している発明家もいます。

シンギュラリティの時代に求められるのは、「知識」と「知恵」の違いを理解すること、そして「人を引きつける力」と「人を動かす力」だと言われています。知識とは「あることについて知っている」こと、知恵は「知識を使って新しいものを創造できる力」です。知識だけでは、このシンギュラリティの時代を生き抜けません。広範囲な知識を土台にし、他者とチームを組んで、コミュニケーションをとって、複雑な問題を解決する知恵が必要です。

まさに、入学式でも伝えた「Let's try」「Respect Others」も重要です。

さて、皆さん、未来はあたりまえにあると思っていないですか。

では、あたりまえの反対語は何でしょう。

あたりまえとは、いつも有ること。その反対はあることが難しいと書き、有難し(ありがたし)という言葉になります。

ありがたしは、あたりまえ、いつも有るの反対語なので、めったにないともとらえられます。

さらに、このありがたしは、ありがたいの語源です。あたりまえではないことをしてくれたから、心からありがたいと言えるのでしょう。

しかし、新型コロナウイルス感染症から、あたりまえが続く有難さも私たちは学びました。

日々の生活に追われ、私たちはあたりまえに過ぎていく毎日の中でも、見えない方々の働きやサポート、正確に進む機械的なシステム運行などの存在に気付く寛容性や身近な人々と有難く思い合える関係性が失われないようにしていきたいと思います。

あたりまえと感じていた何気ないものが思うようにならないときは、誰かのせい、環境のせいにするのではなく知恵と「**Let's try**」「**Respect Others**」で乗り越えていけないか、一緒に考えましょう。高陵中学校はみなさんを支えています。

【1年移動教室】

1年生は、5月17日(土)～5月19日(月)の日程で、長野県で移動教室を実施しました。

1日目は国際自然大学校でクラスごとに、学級目標に合わせたプログラム(課題解決型学習)を実施しました。夜はキャンプファイヤーを行う予定でしたが、降雨後の湿度と強風のため、室内でキャンドルサービスを実施しました。代表生徒が火を付け、ゲームやマイムマイムなどで親睦を深めました。

2日目は鷹山ファミリー牧場で、農業体験、畜産体験を行いました。農業体験では、グループごとにサニーレタスを植え、手際がよいと褒めていただきました。お昼にはバーベキューで、楽しく食事ができました。午後は牧場の人たちの指示をよく聞き、畜産体験をし、牛のブラッシング、乳しぼり、ヤギの散歩をしました。

3日目は八島湿原のハイキングをしました。ガイドさんから自然についての話を聞き、穏やかな時間を過ごしました。

この移動教室を経て、1年生は一回り成長できました。



【6月の予定】

6月 2日(月)	運動会振替休日
6月 3日(火)	運動会予備日 (4日は午前中のみ)
～6月 4日(水)	
6月 5日(木)	高陵子どもサミット
6月12日(木)	1学期期末考査
～6月16日(月)	
6月23日(月)	3年修学旅行 (シンガポール)
～6月27日(金)	

